災廃処理促進へ期待

仙台 仮設炉で焼却開始

他の２地区に先駆けて焼却運転を開始した蒲生地区の焼却炉

仙台市が3カ所の災害廃棄物仮置き場（蒲生、荒浜、井土）に設置している仮設焼却炉のうち、JFEエンジニアリングが建設した蒲生地区の焼却炉が、1日から焼却運転を開始した。東日本大震災で発生した災害廃棄物の処理に際しては、宮城県や岩手県も仮設焼却炉の設置を準備・検討しているが、実際に稼動を開始したのは同焼却炉が初めて。

同社が建設した焼却炉は処理能力日量90トン。9月中は試運転を行い徐々に処理トン数を上げ、性能確認を行い、来月1日の本稼動開始を目指す。90トンの処理が可能と確認されれば、1日より前でも90トン処理を実施する方針だ。

平成23年9月7日
環境新聞